

心のプロジェクト

研究テーマ『自ら進んで行動しようとする力を育てる』

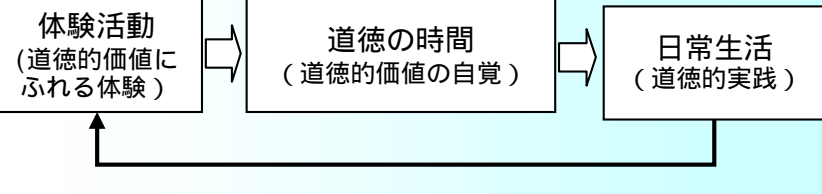
1 研究のねらい

体験活動や日常生活と関連させた道徳の時間を設定することを通し、道徳的な実践力を育てる。

【体験活動】 体験活動を通して考え方、感じ方を身につける

【道徳の時間】 資料を通して価値について考え、深める

【日常生活】 道徳的実践



2 道徳の時間を充実させるための取り組み

資料の分析

場面の「起・承・転・結」を把握
・主人公の心情の変化を捉える。
発問の設定
・中心場面を見つけ、中心発問を設定する。
・基本発問を考える。
・補助発問を考える。

資料に即したねらいを設定し、ねらいに迫る。

思いや考えを表現させるための工夫

ワークシート、ホワイトボードの活用

児童生徒の考えをまとめさせる

ネームプレート、心情円盤の活用

自分の考えの位置づけや、変容を明らかにさせる

思考を深める構造的な板書

場面構成を整理する

授業研究の実施

授業記録の活用
視点を明確にした研究協議

- ・資料選択、資料分析は適切だったか。
 - ・ねらいは適切だったか。
 - ・発問は精選されていたか。
 - ・導入・終末の工夫は効果的だったか。
 - ・思考を深める板書になっていたか。
 - ・児童生徒はねらいとする価値について考えることができたか。
- 小中合同研修

3 小中連携のメリット

授業交流・小中で授業参観を行い、児童生徒の様子や指導内容・方法について交流することにより、共に、授業の工夫・改善を図ることができる。

合同研修・共通のテーマを設定し、より効果的な指導法について、共同で研究を進めることができる。

合同行事・上級生は、リーダー性や思いやりの気持ちを育み、下級生は、上級生の言動からめざす姿を学ぶなど、異年齢集団の体験活動を仕組むことができる。

4 成果と課題

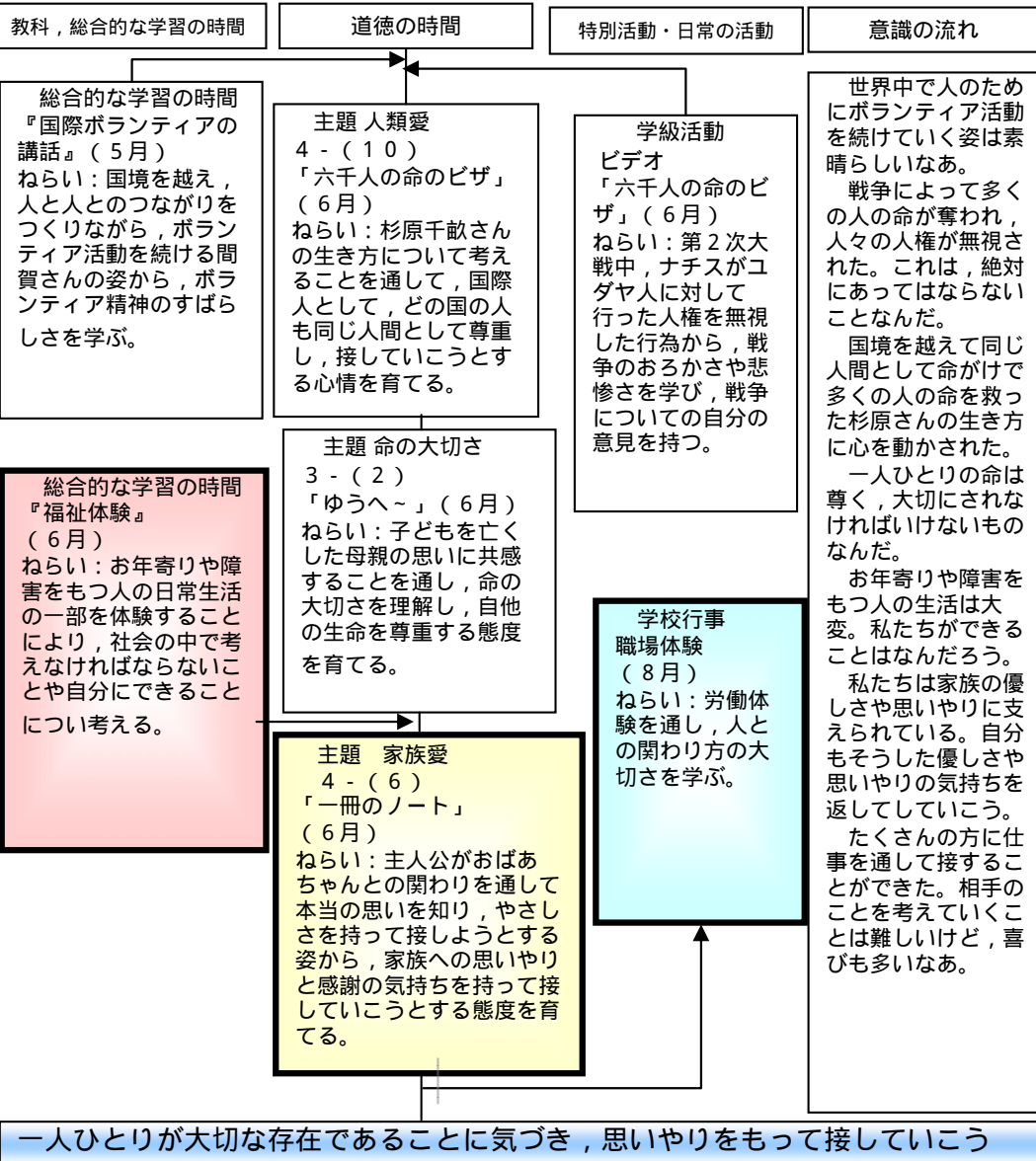
体験活動で考えたことを振り返り、主人公の気持ちと自分自身を重ね合わせて考えることにより、児童生徒の発言に深まりが見られた。道徳の時間に学習した内容項目を実践する場としての体験活動を位置づけることにより、めあて達成の姿につながる具体的なイメージをもたせることができた。そのことが、児童生徒の自分から進んで行動する姿につながった。

今後も、学校行事等、体験活動との関連を図った道徳の時間を設定し、児童生徒の「自ら進んで行動する力」を育てる取り組みを続けていく。

体験活動や日常生活と関連させた道徳の時間の実践 (中学校2年生)

総合単元名「思いやりをもって」

ねらい「一人ひとりが大切な存在であることに気づき、思いやりをもって接していこうとする態度を育てる。」



福祉体験



アイマスク体験

お年寄りの人は手足を曲げたり、箱を開けたりすることが大変なんだ。できることは手伝ってあげたいな。

高齢者体験

段差のない家がいいな

お年寄りのしんどさ、苦労に気づき、自分にできることは何か、考えることができた。

道徳の時間「一冊のノート」



思いやり

おばあちゃんに、重い物を持たさないようにしましょう。

感謝

おじいちゃんが、家族のために作ってくれている野菜をわたしたちは食べているんだな。

主人公のおばあちゃんへの気持ちの変化を考えていく中で、自分の家族についても考えることができた。

職場体験

相手の気持ちを考えて接客していくことが大切だな。



「きりり山野」での接客

いろいろな職場で働き、たくさんの人に関わり、相手の気持ちを考えて接することができた。



パソコン大学での講師助

“ありがとう”と言ってもらえてうれしかった。

